



壬生の花田植え

六月四日(日) 北広島町千代田地区

約一万人の人出で賑わう!! ユネスコ無形文化財「壬生の花田植え」 地元酪農家が牛乳・乳製品の普及活動に一役

広酪西部事業所管内の組合員 (尙)山尾牧場(山尾稔之氏)は、自宅の駐車場スペースを開放し、地元産の生乳を使用した県北搾り牛乳(協同乳業(株)製造商品)、乳製品や乳和食のパンフレット、ミルクの配布を通じた普及活動にあられた。

当日は、商店街を散策する来場者も多く、用意した牛乳百二十本(二百ml)は、あっという間に消費された。

牛乳等を受け取った消費者からは、牛乳は「よく飲んでいきます。」「毎日飲んでいきます。」のコメントに、山尾さんの類は緩み、消費者との結びつきの喜びを改めて実感された様子であった。

また、出店ブースには、(尙)山尾牧場の子牛を繋ぎ、触れ合う事もでき、人が途切れることなく、子牛との触れあいも楽しまれていました。

第9回

おいしい酪農経営!!

100万円の導入牛で酪農経営は成り立つか?(1)

全国酪農業協同組合連合会
購買部酪農生産指導室課長

たんと やすし
丹戸 靖氏



ホクレン発表の市場価額集計結果によると、平成29年5月の初妊牛平均価額は89万4千円でした。前年同月の価額は69万3千円でしたので、約20万円/頭も値上がりしていることが分かります。副産物価額の上昇を差し引いたとしても、実質的な負担は10~15万円/頭増えたこととなります。

目下、育成牛頭数が増えていない状況を見ると、今後もしばらく高騰が続くことを前提としないといけないでしょう。牛群更新や増頭のための計画作成に際しては、初妊牛価額を100万円~120万円で試算される経営者の方が増えています。

酪農経営は、「キャッシュフロー(牧場が一年間に生み出した現金)をベースとして考える必要がある。」ということ、前月までお話ししましたので、その計算方法を用いて、100万円の導入牛で酪農経営が成り立つのかどうか?を考えていきたいと思えます。

我々が平成28年度に集計した結果では、経産牛1頭あたりから生まれた“現金”は約29万円/頭・年でした。この金額から税金支払、借入償還、家計費を捻出することになります。手元の集計結果では、それらを差し引いた余剰金は約15万円/頭・年となっています。

それでは、この余剰金の数字を利用して、100万円の初妊牛を導入したケースを考えてみましょう。余剰金だけで償還するためには・・・

$$\text{導入価額 } 100 \text{ 万円} \div \text{余剰金 } 15 \text{ 万円} = 6.7 \text{ 年}$$

あくまでも集計結果からの計算ですが、7産しないと元が取れそうにありません。現実的には、導入牛の償還は2~3年程度でしょうから、その間の資金繰りはマイナスとります。

来月は、様々な要素を組み込んで、導入牛100万円 で成り立つ酪農経営の条件を見ていきます。